

リレーインタビュー

矢板の未来を紡ぐ

江連燃料株
江連 仁さん

高校に入学した年に父親が亡くなり、家業の燃料店の経営は、母と姉の女性2人の手に委ねられることに。卒業と同時に、店を手伝いながら、配管技術を学ぶためにガスの問屋で4年間の修行……。 「苦労はあったと思うけど、野球を続け、明るくみんなを引っ張っていくリーダー的な存在だった」と、同級生で、前回登場の小口眞里さんの紹介です。

■つながりの中で
「私の父は、仲間を大事にする人でした。いまだに、『お前の親父はおっかなかったけどいい人だった!』と知らない人から言われることがあります。地域で生きるということは、そういう自分でも気づかないつながりの中で生きるということだと思います」そう話す江連さんは、学童野球の指導、消防団、自分の野球チーム、体育推進員、商工会青年部など、さまざまな活動でいつも飛び回っています。

■その子の精いっぱい
息子が小三になった時、監督に勧められ、片岡クラブのコーチとして、子どもたちに野球の指導を始めて丸一年になります。子どもたちにも「大きな声でハキハキ」「やれることは集中してやれ」と言っています。最初からそれができる子はいませんが、一生懸命にやってみようという子が多い。その子の精いっぱいである。その子の精いっぱいである。

「カミさんには迷惑をかけていますが、それでも文句を言わずに協力してくれるのは、私が仲間や人付き合いにこだわっているからだと思います。勝つことだけにこだわっているのではなく、

自分でも気づかないつながりの中で：仲間を大事にし、自分の精いっぱいを！

■地域の中で子どもがスポーツをする意味は
まず、人と関わることで、人と知り合うことだとシンプルに考えています。地域の中で知り合いがいれば、スポーツだけでなくほかの活動についても入りやすい。私も、知り合いに誘われてごく自然に地域のいろいろな活動に参加していました。

また、スポーツで発散できる子、仲間、友達に恵まれている子どもは大丈夫ということもみ、プロパンガス、灯油を使う新しいお客さまはなかなか増えず、厳しい状況です。

うちのようない地域密着型の店が生き残るには、「顔が見える商売信頼関係、フットワーク」といった要素を大事にし、お客さまとのコミュニケーションをとりながら、ニーズにこまめに応えていくことが必要だと思っています。

■続けるエネルギーがまちを作っていく
矢板という地域の問題点を、まちおこしという視点で考えた時、「●●のまちづくり」というような事業がトーンダウンしてしまうように、なんとなく、大成する前に終わるという、中途半端な感じが否めません。ひとつの企画を実施するということは、これだと思っからこそやり始めたこと、みんなやろうと決めたことですから、根付くまで継続していくという強い意志が必要ではないでしょうか？ 昨年行われた花火大会も良いイベントだと思いますが、課題はこの「続ける」ということではないでしょうか？ 継続するエネルギーがあるかないかが問われているのだと思います。

■市民力とは？
私が考える市民力というのは、住んでいる人の結束力だと思います。

人口が増えて税収が増えるのもいいけれど、人々が楽しく過ごせる、みんなが身近に思える、地域の人の顔が見えて、誇りが持てる、そんな矢板をみんなが好きになることではないでしょうか？

そのためには、それぞれが自分のできることを精いっぱいやっていくしかないし、それがいろいろなことを継続するエネルギーになるのだと思います。

■ささやかな夢
矢板の野球チームはみんな感とつてもやっています。ずっと好きなことをやっていくから幸せだと思っています。自分が今やっているチームに子どもが入って一緒にやるのが、私のささやかな夢です。



というように、のびのびやって欲しいのです。中学、高校になっても続けて欲しいし、野球だけでなく、何をやるにしても、若い人たちがのびのびとやっていくことが結果として地域をつなげていくことになるのではないのでしょうか。

■燃料店の未来は？可能性を信じて
世界中で資源・エネルギーの争奪戦が始まり、原油は高騰。地球温暖化防止の考えからソーラーシステムや、オール電化の普及が進

み、プロパンガス、灯油を使う新しいお客さまはなかなか増えず、厳しい状況です。

うちのようない地域密着型の店が生き残るには、「顔が見える商売信頼関係、フットワーク」といった要素を大事にし、お客さまとのコミュニケーションをとりながら、ニーズにこまめに応えていくことが必要だと思っています。

■続けるエネルギーがまちを作っていく
矢板という地域の問題点を、まちおこしという視点で考えた時、「●●のまちづくり」というような事業がトーンダウンしてしまうように、なんとなく、大成する前に終わるという、中途半端な感じが否めません。ひとつの企画を実施するということは、これだと思っからこそやり始めたこと、みんなやろうと決めたことですから、根付くまで継続していくという強い意志が必要ではないでしょうか？ 昨年行われた花火大会も良いイベントだと思いますが、課題はこの「続ける」ということではないでしょうか？ 継続するエネルギーがあるかないかが問われているのだと思います。

■市民力とは？
私が考える市民力というのは、住んでいる人の結束力だと思います。

人口が増えて税収が増えるのもいいけれど、人々が楽しく過ごせる、みんなが身近に思える、地域の人の顔が見えて、誇りが持てる、そんな矢板をみんなが好きになることではないでしょうか？

そのためには、それぞれが自分のできることを精いっぱいやっていくしかないし、それがいろいろなことを継続するエネルギーになるのだと思います。

■ささやかな夢
矢板の野球チームはみんな感とつてもやっています。ずっと好きなことをやっていくから幸せだと思っています。自分が今やっているチームに子どもが入って一緒にやるのが、私のささやかな夢です。